

占いとまじない 其之二

栃木県埋蔵文化財センター 篠原 祐一

(前号からの続き) 一方、五行説は、万物を五つの概念に分類する思想であったが、陰陽思想と一体化してからは、「気」の五つの様態を説明するものとなった。特に、五行がそれぞれ相い反して関係し、強弱をもつ「相剋説」や、四季のように循環して各々が発生するとする「相生説」(太極図はこの思想を表したもの)などがある。

陰陽五行思想は、6世紀頃に韓半島を経由して我が国へ伝わった。これらの理念を元に、聖徳太子は、十七条憲法や冠位十二階を制定し、以後、執政者の学問として定着した。

奈良時代に律令(法律)が

整備されると、中務省(今の宮内省+国立図書館)に陰陽寮が置かれ、天文観測・暦の作成・時刻の管理・占いを行う国家最高機密機関と位置付けられる。

陰陽寮は律令で定員が定められ、陰陽師六人、陰陽・暦・天文・漏刻博士各一人の研究者集団であった。中央官庁以外には、福岡県の大宰府(国の九州支所)に一人のみを認めていたが、貞観一四年(八七二)に、出羽(山形)・武蔵(埼玉・東京・神奈川の一部)の国府(県庁)に置かれてから全国に広がり、次第に民間にも浸透した。

平安時代後期(十世紀)の陰陽道は、国家≠天皇家・藤原家の関係から宮廷陰陽道化する。安倍清明はこの頃の人である。歴史の羨舞台から裏に移った陰陽道は、道教や密教・神道など様々なものが混在し、独自の世界を醸し出した。特に怪奇・病気事などは、職能化するまでに至り、今日の陰陽道観となる。

民間に流布した陰陽師の話として、播磨國の智徳法師が、「陰陽の術を以て海賊」をこらしめる話や「清明に會ひてぞ識神を隠され」る話が『今昔物語集』にある。こうして、陰陽師は術者として定着し、暦や歳事、方位、占い、加持祈祷、病気民間治療などの役を担うことで庶民生活に広く深く浸透し、習俗化するまでの座を占めるに

至る。

一方、宮廷陰陽道は、賀茂(幸徳井)家・安倍(土御門)家の両家伝承となる。鎌倉時代に入ると、両部神道(密教神道)や修験道(山伏)の成立に関わり、華道・茶道・能楽などの芸能にも多大なる影響を与えたのである。

近年、陰陽道に関することで、興味深い学説が示された。

発掘調査などで出土する墨



千葉県芝山町庄作遺跡出土墨書土器

※現在は、天文観測・暦の作成≠文部科学省国立天文台・国立宇宙科学研究所、国土交通省海上保安庁海洋情報部(船舶用の天文暦の作成)、時刻の管理≠総務省独立行政法人通信総合研究所がその役割を担っている。***職神≠式神とも書き、陰陽師が使役する鬼若しくは無生物を変化したもの。

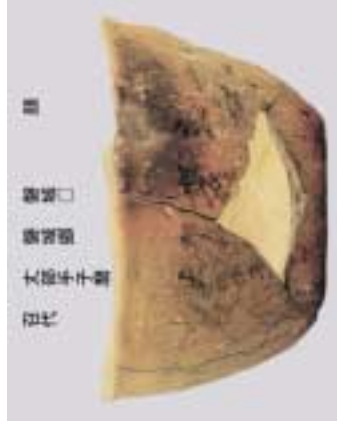
書土器（当時の茶碗などの食器に墨で文字が書かれた土器）が、在野に入り込んだ陰陽師に起因するものだという説である。

墨書土器は、東日本に多く出土し、器の所有・使用者に關係する名・役職や吉祥的語句、又、「罪ム国玉神奉」「文部手万呂『召代』」などがある。



国立歴史民俗博物館の平川南教授はいう。

平安時代、閻魔大王が地獄で、生前の善悪を審判・懲罰し、鬼が働く冥界観が定着した。この思想は、道教とともに伝えられ、鬼を扱う陰陽道と伴に民間に広まった。『日本霊異記』には、死亡予定者リストに名のある人物が、冥界から迎えに来た鬼をもてなしたため、死を免れたという話があり、鬼は義理堅く、饗宴すれば助かると信じられていた。また、閻魔庁は文書行政で、当時の官庁と同じであっ



福島県いわき市荒田目条里遺跡出土墨書土器

ため、閻魔庁宛の自己申告には、律令行政文書の書式が用いられた。先の「罪ム国玉神奉」「文部手万呂『召代』」も、「罪はありません。（この食事を）国玉の神に奉ります」「（この食事は）文部（姓）手子万呂（名）が（冥界に）召される代わりです」との自己申告である。そして、鬼へ饗宴する際、器に自己申告を記したのが、遺跡から出土する墨書土器であり、この方法や思想を広めたのが陰陽師である。



類似した話が奈良時代に書かれた『備後国風土記』逸文中にある。旅に出た武塔神（素戔嗚尊）は、一夜の宿を請うが、富裕な弟の巨旦将来は断り、貧しい兄の蘇民将来は歓待した。武塔神は茅の輪の護符を蘇民将来に教え、帰路、護符を持たない者を悉く滅ぼしたという。

この伝説は各地に残っており、「蘇民将来子孫之門」や「蘇民将来子孫繁昌也」と書かれた護符を家の戸口に掛け、厄病を除ける風習が今も見られる。伊勢志摩地方の護符の裏にはセーマン・ドーマンが書かれ、陰陽師との関わりが残されている。



明治三年、所謂天社神道（陰

陽道）禁止令」が布告され、陰陽道は取り締まりの対象となった。

しかし、神社



伊勢地方の蘇民将来符

右下は左下の蘇民将来符の裏面。「急々如律令」は律令意味、その右下の☆はセーマン、左下がドーマン。

から頂いた暦や高島暦を開いていただきたい。

一白水星などの九星、甲乙丙丁などの十干、子丑寅卯の十二支、五黄殺、土公など、暦にある殆どが、陰陽道の所産である。因みに、現在、最も用いられる大安・仏滅などの六曜は、明治以降の信仰で、それ以前は、十二直、二十八宿が重要視されていた。



今も昔も、厄から逃ようとす

る人の心は変わらない。そのまま

じない方法には、今は忘れられた

陰陽思想が、色濃く残されている。

清冽な神と閻への対応。

清濁併せ持つのが人の世なのだろうか。（大前神社権禰宜）